

ネパールで学校建設

中野（水野）和子（10組、浜松市在住）

私と田中裕子さん（5組）とは中学の同級生で、裕子さんがインドから帰省すると時々夏にお会いしては、インドの話や、私のネパール支援の話をして、お互いの近況を語り合っていました。先日、久しぶりに帰省中の裕子さんから電話があり、「インドのことを原稿にして65期HPに載せてもらうから、（中野さんの）ネパールの話も載せていただいたら」と言われ、今回投稿します。

私は長い間、浜北ロータリークラブ（RC）に在籍していますが、2015年ちょっと前にネパール人のビルが入会してきました。その頃、RC国際奉仕委員会で何か行動したいと思っていたところ、2015年4月、ネパール地震があり、ビルからRCで何か支援していただけたら有難いと依頼がありました。ビルの故郷ダーディー郡シェラントン村の学校が崩壊して困っているといので、早速、現地視察に行きました。

まず浜北RCへ話を持って行きましたが反対にあいました。それでも子供たちの澄んだ瞳が忘れられず、知人夫妻と筆者（中野）で二教室を建てることにしました。

費用は二棟で500万円です。

なにせ標高2千メートルの山岳地帯で車が通らない山道、ロバ100頭でコンクリート等を、人夫100人で鉄筋やトタンをカトマンズから二、三日かけて運びます。

ビルに人が崖から落ちたら困るから保険をお願いすると、かけられないと言うので、「何故？」と問うと住民登録していない人がたくさんいるとのこと。

お酒をのんだら運ばせないように、ビルに厳しく管理してもらいました。

ロバは一頭、崖から落ちたとのことですが、人間に怪我がなかったのは幸いでした。

2017年に教室は完成し、現地にお祝いに行くと踊りを踊ってくれたり、一緒にダンスをしたり楽しい一日を過ごしました。

その後、浜北RCでグローバル補助金900万円を出してもらい、トイレ等を作り、さらに仏教会やその他の方から援助の手が差し伸べられ、4棟の教室が完成しました。

次ページがその時の写真です。



人夫たちが建築資材を背負って
山道を運ぶ

完成したネパールの教室前で、真ん中が筆者



筆者の名前の入った記念碑

(2023年6月28日記)

以上